

香川の先進企業の力を探る あの人になりたい！

島産業株式会社

代表取締役

島 憲吾さん

もちろんコロナ終息後の話ですが、自治体のみなさんにも、ぜひ世界の大展示会をのぞいてみていただきたい。新商品開発に關して一役買うことができ、地域経済発展に寄与できるのではないでしょうか。コロナ禍でさらに重要な補助金制度においては、企業の計画から実行を配慮して、応募期間を考えていただきたい。どの補助金が自社に適するのかわ、アドバイスをしてくれる、コンシエルジュのような存在がいれば、さらにありがたいですね。

官公庁向けのゴミ処理プラントを手掛け、昨年は経済産業省の「地域未来牽引企業」に選定された島産業株式会社。2013(平成25)年から家電業界に参入し、生ごみ減量乾燥機を開発しました。改良を重ねた製品は、世界的に権威のある二つのデザイン賞に輝き、日本グッドデザイン賞も受賞。この製品開発を手掛けた島 憲吾氏に開発秘話などを伺いました。



商品開発グループの受賞メンバー

前列左から来見幸太郎さん(ディレクター兼チーフデザイナー)、島憲吾さん(代表取締役)、藤田晃男さん(プロデューサー兼システムデザイナー)。

後列左から飯田誠さん(メカニカルデザイナー)、川野勇さん(メカニカルデザイナー)。



リサイクル施設、粗大ごみ処理施設など官公庁向けのごみ処理施設の設計、建設、メンテナンスを行っています。



明るい社屋では、基本計画から試運転に至るまでのトータルエンジニアリングを行っています。

■ 経営理念をお教えください。

本音で言えば、社は経営理念と
いつた堅苦しいものは全てカットし、
逆に社員を締め付けないシンプルさが
信条です。これまで苦勞を掛けた時期
もありましたが、現在では年間の売り
上げ目標も明示しません。もちろん
私自身は把握しておりますが、社員
には「営業も技術の人も粗利目標を
考え、赤字は出すな」とそれだけを
お願いしています。

■ 貴社の事業内容や取組内容についてお教えください。

一言でいえば、本業は官公庁向け
のごみ処理です。昔は自社で入札に
参加していましたが、合併などで市
町村の規模が大きくなり限界を感じ
ました。そこで、大手重機メーカーさん
の下請け方式に切り替えたというわ
けです。もちろん、それまでの積み上
げがありますから、計画から試運転
までこなせる能力は持っているのだ
が、時代の流れを考えての選択です。

■ 数々の国際的なデザイン賞を受賞された生ごみ減量乾燥機開発のきっかけをお教えください。

将来を踏まえてもう一つ何か新し
い分野にトライしたいと考えていた

ところ、2003(平成15)年に経済産

業省において設立された京都議定書
目標達成産業技術開発促進事業の
制度では、地球温暖化問題の解決に貢
献する革新的産業技術については助
成促進するためにその技術開発に大
規模な事業費補助を受けられること
を知りました。早速応募したところ、
初年度は落選。企画内容の良いところ
悪いところを細かく指摘してくれたの
で、それを踏まえてもう一度チャレン
ジすることになりました。たまたま書店
で良きバイブルとなる本を見つけ、論文
の書き方も工夫した上で再チャレン
ジしたところ、無事に採択されました。

■ 生ごみ減量乾燥機開発の経緯をお聞かせください。

開発に乗り出したのは2009
(平成21)年のことですが、当初は機械
メーカーの考え方のみで性能を上げ
ることに躍起になっていました。でき
あがった試作機は、ごみ処理能力
に関して言えば、ものの20秒で破碎、
脱水、袋とじできる完璧なものでした
が、大きい音がうるさい、臭いの三拍
子そろった失敗作。到底家庭で使え
るものではありませんでした。高知県
の某自治体が声を掛けてくださり、
実際に製品をモニターすると、「これ



機能もデザインもブラッシュアップされる前の試作機。

は使えない」と一蹴されました。

この時は悔しかった。そこで、コン
パクトで音が静か、臭いがもれない生
ごみ処理機を目指し奮闘が始まり
ました。当時は我が家でも試作を重ね
ていましたので、熱処理乾燥が暴走し
火が出ないかと夜も眠れませんでした。
ですから、現在の製品は赤ちゃんのい
る家庭でも安心して使えるものにし
ました。また、臭いを防ぐための活
性炭は、炭の本場である中国各地を
探し回りました。絶好の炭を見つけ
たと思えば、軍のガスマスクとして使
われていたため国外に持ち出せず、あ
えなく撃沈したこともありました。砂
漠の果てのようなところまで出向い
たこともありました。おかげで、納
得できる活性炭に出合うことができ、
産業界技術総合研究所のつくばセ
ンターで1年半研究も重ねました。
そして、2013(平成25)年に
家庭用としても自信作である初期
モデルを売り出しました。ところが、
全く思うように売れません。量販店

の店頭では、色とりどりの同じような家電がずらりと並んでいます。ありきたりの色では、わが社のような後発の企業は知名度も低く、なかなか手に取ってもらえないと考え、名前に「パリパリ」と付いていますので、思い切ってフランス国旗のトリコロールカラーを採用。色を工夫したところ、販売件数も徐々に伸びてきました。

すると、ある通販会社の方が、グッドデザイン賞に応募してみたらと、声を掛けてくれたのです。そこで、はりきって応募したところ、「色が悪いですね」と酷評され、担当者が肩を落として帰ってきました。それなら、国内などといわず、世界トップクラスのデザイン賞にトライしようとはっぱを掛けました。

調べたところ、世界三大デザイン賞といわれるものがあり、その二つがドイツで開催されることを知りました。それに、ノミネートすることにしましたが、私をはじめ開発チームのメンバー誰もが「賞など絶対取れるわけはない」と正直思っていました。実際その通りで、最初の年は落選。それではと、さらに工夫を重ね、アピールの文章も考え抜き、一年をおいて新機種で再挑戦。

この頃のチームの合い言葉は「江戸の敵は独逸ドイツで討つ」でした(笑)。その結果、2020(令和2)年に「GdDデザイン賞

(IF Design Award)」「レッド・ドット・デザイン賞(red dot design award)」をW受賞。また、日本では「グッドデザイン賞」をいただき、さらに、ドイツの経済産業省のような役所が主管する賞「ジヤーマンデザインアワード2021(German Design Award 2021)」スペシャル賞を受賞することができました。この賞は、まず世界的な賞を受賞した実績が必要で、ドイツデザイン協議会からノミネートされるだけでも栄誉という賞でした。ドイツでの各授賞式は3回共このコロナ禍で中止になり、社員はガツカリしていました。ちなみに色が悪いと言われたトリコロールカラーは、今では主力製品になっています。



国際的に権威のある世界のデザイン賞や日本のグッドデザイン賞など国内外の数々の賞を受賞した「パリパリキュー」。

■ 貴社における製品づくりのこだわりをお教えください。

何より誇るべきは、これらのデザインは全て社内で行ったことです。弊社では機器のデザインのみならず、パンフレットやカタログ、プロモーションビデオなども社内ですべて行っています。

もちろん技術には自信を持っています。性能面でも改良に改良を重ね、2016(平成28)年4月に発売したトリコロールカラーの「パリパリキュー」は約15の特許を取得。2020(令和2)年発売の「パリパリキュー」は約20の特許を取得しています。生ゴミは家庭によって内容が違います。試作機を多くの社員に持ち帰って家庭で使ってもらい、情報をたくさん集め、分析した結果、全ての家庭にあう最大公約数を満たし安全かつ短時間で処理できる製品でなければなりません。製品試験はさまざまな条件で複数の台数を並べ、一件600回以上を1日2回で300日行います。

現在、製造に関しては中国の工場で行っていますが、検査態勢は国内外とも厳正です。弊社の社員立ち会いの下で日系の検査会社に委託し中国で3回、さらに日本に帰ってから高松市の検査会社で1回と最終

自社で1回の検査を重ねます。

こうした努力を重ね「パリパリキュー」「パリパリキューP」共に、「嫌なにおいがしない」「生ゴミが清潔に扱える」「コバエが飛ばない」「ごみ出しが軽くなる」「汁だれしない」「雑菌を繁殖させない」「有機肥料にも使える」おまけに「CO₂削減にも貢献できる」自慢の製品です。



根強い人気があるトリコロールカラーの「パリパリキューブライトアルファ」。

生ごみの大幅減量は、行政側のごみ処理にも大きく貢献します。購入にあたっては、全国で約6割の自治体が助成金を出してくれていますし、観音寺市ではふるさと納税の返礼品にも使われています。

会社の将来像と目指すべき社長及び社員像等がございましたらお聞かせください。

本業の方はすでに息子に任せて



観音寺市の田園地帯にある島産業株式会社の本社。

おります。新分野は市場規模が違うので、家庭用生ごみ処理機のブラッシュアップを繰り返して、技術革新を進め、どこの家庭にでもある不変商品にしたいと願っています。さらに、新たな家電製品を開発したいと考えているところです。ですから、固執せず生涯現役でトライし続ける代表でいたいですね。

以前は夜遅くまで会社の灯りがついていたとうれしい気持ちでしたが、今は恥ずかしい思いがします。ですから休みも取らず夜遅くまで仕事をしてほしいとは全く思っておりませんが、進歩を止めない社員でいてほしいですね。弊社の社員は、ひとりひとり本当に頑張ってくれています。結局は誰も助けてはくれない、自分で頑張るしかないと自覚するしかないということでしょうか。



島産業株式会社は2020(令和2)年、地域経済の中心的な担い手となりうる事業者に贈られる経済産業省の「地域未来牽引企業」に選定され、地域経済のリーダーとして期待が寄せられています。

**香川県や市町の行政に感じて
いらっしやることを、お聞かせ
ください。**

コロナ禍では企業にとっても頼みの綱の補助金や助成金ですが、探すのも申請を出すのも非常に複雑という印象があります。計画や準備が必要なものもありますが、募集期間が短すぎます。特に単発の補助金制度は、気がついたときには後の祭りというものも多いですね。可能ならば前もって情報がほしい。また、各課それぞれに補助金の情報が分かれています。また、それが弊社に当てはまるものかを見極めるのも大変です。コンシェルジュのような方がいてくれると助かりますね。

また欲を言えば、コロナ禍でもあ



島 憲吾 (しま・けんご)

香川県観音寺市出身 (香川県在住)
昭和27年12月21日生まれ 68歳

- 昭和45年 3月 観音寺第一高校 卒業
- 昭和49年 3月 明治大学経営学部 卒業
造船メーカー勤務を経て
- 昭和51年 2月 島産業株式会社 入社
- 昭和62年 3月 同社 代表取締役 就任
現在に至る。

本社所在地 香川県観音寺市中田井町1番地

PROFILE

り、面接審査などはリモートできると助かります。説明はネットだけでなく紙媒体でも確認できる方がありがたいですが…。

**本誌を読む自治体職員に向けて、
アドバイスをお願いいたします。**

自治体の方々も世界的な展示会にはぜひ足を運んでみるべきです。中国の広州の展示会、アメリカやドイツの展示会に何回も参加したことがあります。日本で見える見本

市とは全く規模が違い、想像を超えるありとあらゆる商品が並んでいます。一般的なマッチングパーティーなどより、ずっと効果的な出会いがあると私は思います。

まずは県をはじめ自治体の方々が見聞をし、民間からも募集しツアーを組んでいくべきです。新商品開発に関して一役買うことができ、非常に勉強になります。地域経済発展に寄与できるのではないのでしょうか。